

I 研究の概要

1 研究主題と主題設定の理由

(1) 研究主題

基礎基本の確かな定着と向上を目指した指導方法の改善

—読解力・思考力・判断力・表現力の育成と評価の工夫、学業指導の充実を通して—

(2) 主題設定の理由

本校は、区内小学校卒業生の約5割が私立・国立中学校へ進学する現状がある。本校に入学してくる生徒の約4割強が基礎学力が不十分な状況にあり、学力の二極化傾向も顕著である。また、家庭学習の不足、忘れ物が多いこと、宿題の未実施など授業に対する構えの不足、基本的な生活習慣が十分身につけていない生徒の増加など、本校が抱える課題は多い。このことは全国学力学習状況調査の結果からも読み取れる。

以下は、平成21年度全国学力・学習状況調査（第3学年で実施）の結果である。

① 全国の平均値よりも、「している」、「どちらかといえばしている」と回答した割合が高かった設問

- ・学校に持って行く物を、前日か、その日の朝に確かめている。（本校＝86.1%、全国＝83.9%）
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている。（本校＝73.1%、全国＝69.3%）
- ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。（本校＝94.8%、全国＝90.9%）
- ・難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している。（本校＝74.8%、全国＝62.0%）
- ・将来の夢や目標をもっている。（本校＝74.8%、全国＝71.0%）
- ・学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上勉強する。（本校＝42.7%、全国＝35.5%）
- ・家や図書館で、普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上読書をする。（本校＝14.8%、全国＝12.5%）
- ・家の手伝いをしている。（本校＝64.3%、全国＝62.9%）
- ・携帯電話の使い方について、家の人と約束を守っている。（本校＝49.5%、全国＝36.5%）
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしている。（本校＝47.8%、全国＝37.7%）
- ・家で学校の宿題をしている。（本校＝89.6%、全国＝82.9%）
- ・家で苦手な教科の勉強をしている。（本校＝49.6%、全国＝41.6%）
- ・新聞やテレビのニュースなどに関心がある。（本校＝73.9%、全国＝66.2%）
- ・人が困っているときは、進んで助けている。（本校＝75.6%、全国＝72.2%）
- ・近所の人に会ったときは、あいさつをしている。（本校＝86.9%、全国＝83.0%）

② 全国の平均値よりも、「している」、「どちらかといえばしている」と回答した割合が低

かったり、課題ととらえられたりする設問

- ・自分にはよいところがあると思う。(本校 = 57.6%、全国 = 61.2%)
- ・普段(月～金曜日)、1日当たり4時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしている。(本校 = 19.1%、全国 = 18.4%)
- ・普段(月～金曜日)、1日当たりの睡眠時間が6時間より少ない。(本校 = 13.9%、全国 = 8.6%)
- ・携帯電話で通話やメールをほぼ毎日している。(本校 = 52.2%、全国 = 31.2%)
- ・学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、全く勉強しない。(本校 = 7.8%、全国 = 7.7%)
- ・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、全く勉強しない。(本校 = 16.5%、全国 = 14.7%)
- ・家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べない。(本校 = 39.1%、全国 = 33.8%)
- ・家の人と普段(月～金曜日)、夕食を一緒に食べない。(本校 = 14.8%、全国 = 5.4%)
- ・家の人と学校での出来事について話をしている。(本校 = 57.3%、全国 = 59.8%)
- ・家でテストで間違えた問題について、後で勉強している。(本校 = 30.4%、全国 = 38.1%)
- ・学校で友達に会うのは楽しいと思う。(本校 = 88.7%、全国 = 94.6%)
- ・学校で好きな授業はない。(本校 = 13.0%、全国 = 8.4%)
- ・学校の規則を守っている。(本校 = 86.1%、全国 = 88.7%)
- ・友達との約束を守っている。(本校 = 93.0%、全国 = 96.1%)
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。(本校 = 84.3%、全国 = 90.3%)
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う。(本校 = 88.7%、全国 = 90.4%)

学習に対して取り組む必要性は感じ、実際に家庭学習に取り組んでいる生徒が多い反面、学習意欲の少ない生徒も残念ながら多い。また、学習や、学校生活について家族で話し合う場面が少ない生徒が多いのが現状である。基礎基本の確かな定着と向上を図っていくためには、学校だけではなく家庭の協力が必要である。全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、どのように家庭と連携していくかが課題であった。

本校では平成19年度より、学力の向上を目指し、基礎基本の徹底を図るための指導方法の改善と指導計画の見直し、より客観的な到達度評価の在り方について研修を深め、到達度評価AやCの生徒に対する指導の手だてを含めた指導計画を作成し、実践を深めてきた。そこで、これまでの研究実践の成果を生かし、基礎基本の確かな定着と向上を目指した指導方法の研究を継続して進める。また、これからの教育で求められている読解力・思考力・判断力・表現力の育成と共に、学習意欲を高めるための評価の工夫や学業指導の充実を図るための実践的研究を行うこととした。家庭との連携を深め、個に応じた確かな学びを保障し、学習意欲を高める工夫を通して、基礎学力の定着と向上を図るとともに学業指導を充実させることは、学校選択制度のもと、本校が選ばれるための方策でもあり、研究主題設定の理由もここにある。

2 本区教育重点施策との関連

中央区教育委員会の基本方針、中央区基本計画2008等、中央区の教育重点施策と本校の研究との関連を下表のようにまとめた。

中央区教育重点施策等	区の教育重点施策について本校の研究や学校の取組にかかわる実践等について
<p>[中央区教育委員会の基本方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学力の向上と個性を生かす教育への取組み 中学校への区費負担講師の配置による個別指導・習熟度別授業を推進する。 ○基礎・基本を確実に身に付けさせるため、 学習状況の把握や指導方法・指導内容の工夫・改善に努める。 ○子どもの可能性を伸ばし、「確かな学力」の定着・向上を図るため、個別指導、少人数指導、習熟度別指導、チームティーチング、補習指導、ICT機器の活用など、個に応じた指導を充実・強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語・数学・英語の区費負担講師各2名の配置により、習熟度別指導、チームティーチングを展開 ・少人数指導（習熟度別指導）を国語、社会、数学、英語で行い個に応じた授業改善の取組（第1分科会の取組を参照） ・少人数指導加配のない理科、音楽、美術、保健体育、家庭の指導においても基礎と標準・発展の指導計画の作成、実践（第1分科会の取組を参照） ・PDCAサイクルを踏まえた年間6スパンの指導計画の作成、実践（第1分科会の取組を参照）
<p>[中央区基本計画2008]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導の充実と学力の向上 習熟度別指導や補習学習など、個に応じたきめ細かい指導の充実、読書活動の推進や食育などの健康教育を推進し、健やかな心と体の育成を通して児童・生徒の体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器や電子黒板の活用（第1分科会の取組を参照） ・朝読書の実践 ・食育講演会の実施 ・スポーツ教育推進校の指定による保健体育の授業の充実、スポーツ講演会の実施 ・各学期末の成績通知のほか、1・2学期の中間考査後に観点別評価の通知及び対象者との学習面談の実施（第2分科会の取組を参照） ・「生活と学習のサブノート」の導入による基本的な生活習慣の定着化、家庭学習の充実、保護者との連携（第3分科会の取組を参照）
<p>[中央区小・中学校指導サポーター制度]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜スクール指導補助員 ・学校図書館指導員 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜スクールにおける基礎コースと発展コース（漢検・数検・英検クリアコース）の実施